宮古島市教育委員会

宮古島市neo歴史文化ロード　綾道　～下地・来間コース～

新

宮古島市 neo 歴史文化ロード

綾道（あやんつ）

下地（しもじ）・来間（くりま）コース

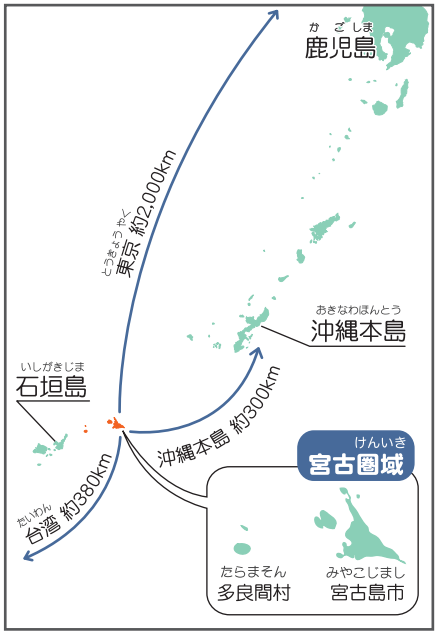
綾道
あやんつ
「趣のある道」のことを、宮古島のことばで「あやんつ」といいます

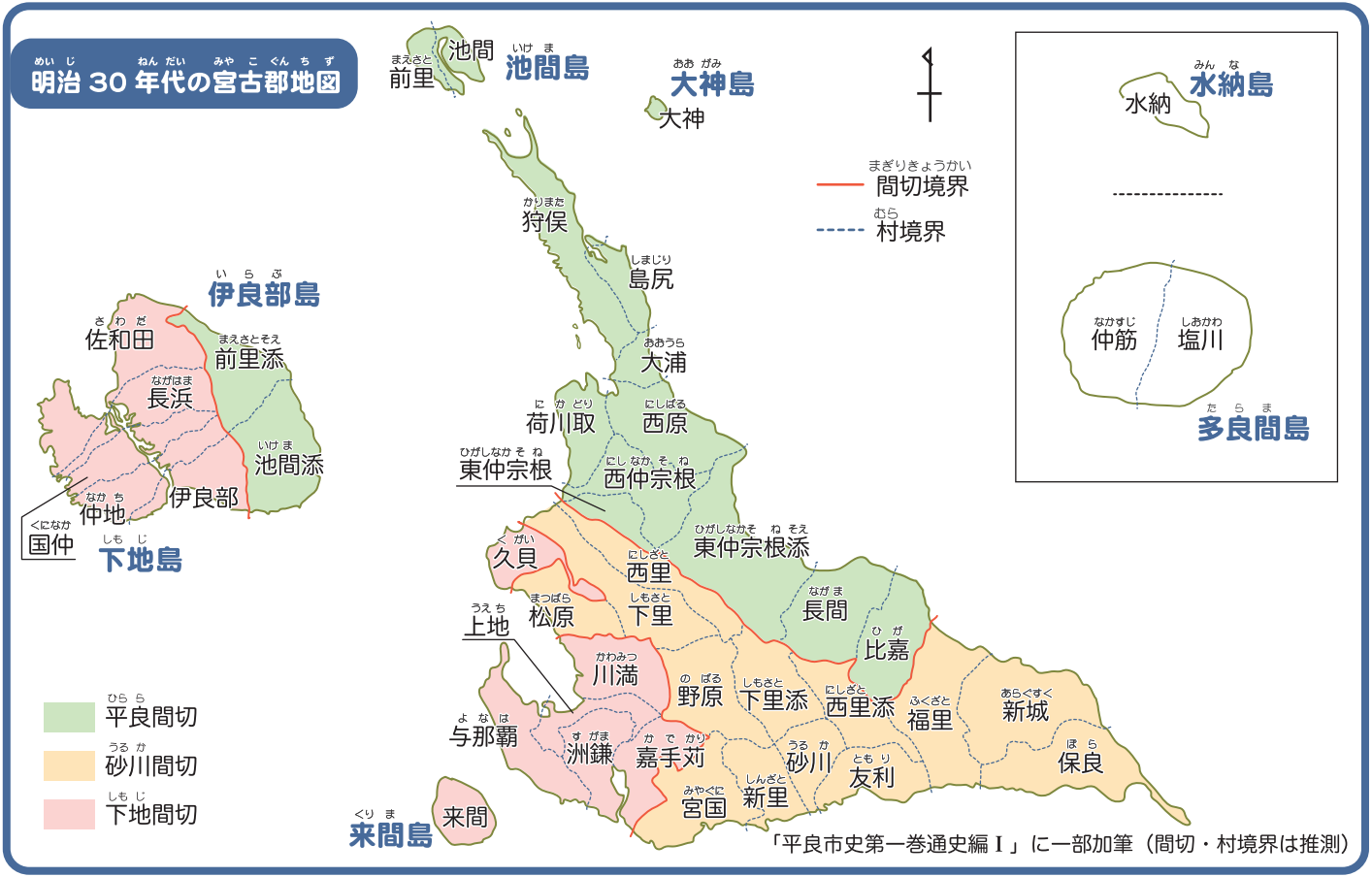
宮古島市の位置と面積

宮古島市は大小6つの島（宮古島、池間島、大神島、来間島、伊良部島、下地島）で構成されています。

総面積は204キロ平方メートル、人口約5万5,000人で、人口の大部分は平良地区に集中しています。

島全体がほぼ平坦で、山岳部や大きな河川もなく、生活用水などのほとんどを地下水に頼っています。





「平良市史第一巻通史編Ⅰ」に一部加筆（間切・村境界は推測）

N
来間遠見 P24
ヤーマス御願 P20
雨乞座のデイゴ P22
来間川(泉) P25
来間島断崖の植生 P26
1km
来間島
4.5km
スムリャーミャーカ P19
来間大橋

↑平良・宮古空港へ
与那覇湾
川満マングローブ
昔は入江だった
赤名宮 P10
START
600m
喜佐真御嶽 P07
宮古島市役所
下地支所
長さ650m，高さ1.5m
幅2.5mの
海中道路があった
加那浜
100m
下地町の池田矼
P08
上地
390
沖縄製糖
宮古工場
洲鎌
1.3km
300m
松村家の井戸の縁石 P14
真屋御嶽 P12
150m
川満大殿の古墓 P15
350m
390
1km
ツヌジ御嶽 P16
ミャーツ墓 P18
197
246
コース全長約10km
所要時間:車で3時間
※地点ごとの距離はおおよそです。
徒歩コース

宮古島市 neo 歴史文化ロード

綾道（下地・来間コース）

もくじ

宮古島市の位置と面積 …… 02
明治30年代の宮古郡地図 …… 03
散策map …… 04
もくじ …… 06
喜佐真御嶽　県指定有形民俗文化財 07
下地町の池田矼　県指定史跡 08
宮古島の交通事情 …… 09
赤名宮　市指定有形民俗文化財 10
子方母天太と12方の神々 …… 11
真屋御嶽　市指定有形民俗文化財 12
綾錆布と宮古上布 …… 13
松村家の井戸の縁石　市指定史跡 14
川満大殿の古墓　市指定史跡 15
ツヌジ御嶽　市指定有形民俗文化財 16
旧暦と干支 17
ミャーツ墓　市指定有形文化財 18
スムリャーミャーカ　県指定史跡 19
ヤーマス御願　市指定無形民俗文化財 20
来間の島建て …… 21
雨乞座のデイゴ　市指定天然記念物（植物） 22
集落に続く道 …… 23
先島諸島火番盛　**来間遠見**　国指定史跡 24
来間川(泉)　市指定史跡 25
来間島断崖の植生　市指定天然記念物（保護区） 26
来間島の植生 …… 27
文化財の体系図 …… 28
それぞれの文化財の一例 …… 29

喜佐真御嶽

喜佐真御嶽は下地の川満集落の南東にあり、『御嶽由来記(1705年)』や『琉球国由来記(1713年)』にも記録されている由緒ある御嶽です。祭神を真種子若按司といい、浦島の神であるとされています。拝所は石垣で囲まれ、100㎡あまりの庭と籠り屋、ムトゥなどがあります。

拝所内の樹木の伐採や男性が出入りすることは、旧暦６月のヤマアキ(山開け)以外は禁じられています。

県指定史跡　1977(昭和52)年７月11日指定

下地町の池田矼

池田矼は崎田川の河口近くにかかる石橋で、琉球王国時代に平良から洲鎌、上地、与那覇へ通じる主要道路のひとつであった下地矼道とともにかけ渡されたと伝えられています。『雍正旧記(1727年)』には『池田矼、南北長20間(約36m)、横３間(約5.4m)、高サ９尺５寸(2.85m)村北ノ潟陸原ニあり』と記されています。後に何らかの理由で壊れた矼を1817(嘉慶22)年に下地矼道とともに大修理をしたと『宮古島在番記』に記されています。矼は、琉球石灰岩がアーチ型に積み上げられており、伝承によると480年余、文献上では260年余の歴史があり、今も堅牢さを誇っています。

宮古島の交通事情

昭和40年頃は
まだまだほとんどじゃりみち

昔はじゃりみちばかりだった宮古島。

トゲのある植物も
多く、ゴツゴツした土地
だらけ。

道を行くより
海の方が速い。

でこぼこじゃりみちだから
レールが便利。

さとうきび

そんな歴史が
池田石工のまわりに
かくれている。

池田石工

奥の橋はさとうきびを
運搬するレール用
の橋だった

燃料や砂糖の
運搬に使用された
石積突堤

沖縄製糖工場

390号線

レール跡?

福山

長南

お年寄りに聞くと
結構遠くから
沖糖に運ぶ
レールが
あった
とのこと

市指定有形民俗文化財　1981(昭和56)年２月17日指定

赤名宮

赤名宮の祭神は「うえか主」で、公的な事業や官職の立身出世をつかさどると伝えられています。『宮古史伝（1927）』によると、子方母天太が生んだ 12 方の神々が宮古各地の御嶽に祀られていると伝えられており、赤名宮もそのひとつです。

他の 12 方の神々は、池間島の大主御嶽（大主うらせりくためなうの真主）、下地の赤崎御嶽（大世の主）、平良の阿津真間御嶽（蒲戸金主）、西里添の美真瑠御嶽（美真瑠主）などに祀られているとされています。

子方母天太と12方の神々

昔、ひとりの若く貧しい女がいました。その女が仕えていた主人は大変乱暴な人で、野山から獲って来た獲物が少ないと、女をきつく打ちのめしました。

ある日、女は野原に出かけましたが、なにも得られず、このままではまた主人に怒られると、夜になっても帰らずに小さな森で夜を過ごしました。ところが、真夜中に異様な物音がし、雷のように何かが野原の中を暴れ回りました。女はますます怖くなり、小さくちぢこまって夜明けを待ちました。

朝になり、恐る恐る野原に出てみましたが、何も形跡がなかったので、女は再び野原で獲物を探し始めました。すると、一羽の赤い鳥が天から舞い降りて女にかしづきました。その日からというもの、獲物が驚くようにたくさん獲れるようになったので、欲深い主人は大変満足しました。

ある日、いつものように女が野原に出ると、急に産気づいて12個の卵を産み落としました。女はとても怪しく思い、野原の隅に穴を掘り、枯れ葉で卵を包んで丁寧に埋めておきました。しばらくして女が野原に来ると、12人の子どもが「母上、母上」と女にすがりついて来たのです。

女は自分の子どもができたととても喜び、野原の中に草の家を作って子どもたちを育てました。すると、天から神様が常に子どもたちに必要なものを不自由なく授けてくれたので、やがて豊かで贅沢な生活ができるようになり、いつしか子どもたちは成人して12方の神々になり、女は天の使者と共に天に昇り、人々に「子方母天太」と呼ばれ崇められました。

その後、最も尊い神であった大主うらせりくためなうの真主は池間島の大主御嶽に祀られ、農業の神であった大世ノ主は下地の赤崎御嶽に、人事諸事の記帳を取り扱った蒲戸金主は平良の阿津真間御嶽、公事や官職の栄達を担ったうえか主は下地の赤名宮、出産を取り扱った美真瑠主は西里添の美真瑠御嶽に祀られました。その他の７方の神々がどこに祀られたかは定かではありません。

『宮古史伝』より

真屋御嶽

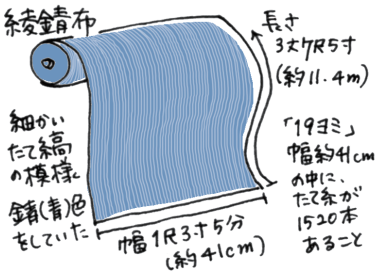
真屋御嶽は、宮古上布の創製者である稲石と、その夫、下地親雲上真栄(通称もてあがーら)が祀られています。

真栄は、洲鎌村の役人、与人として琉球王府へ向かう途中、逆風に遭い、明国に漂着します。たまたま明国に来ていた王府の進貢船に乗せてもらうも、またもや逆風に遭遇してしまいます。船の舵を取る綱が切れ、あわや沈没かと思われたとき、真栄が荒れ狂う海に飛び込んで綱を結び直し、船は無事帰国できました。その功績を称え、王府の尚永王はお褒めの言葉と共に下地の頭職に任じました。

稲石は、上地の与人、迎立氏の娘として生まれ、真栄の妻となりました。夫のこの出世に感激し、3年の苦心研究の末に「綾錆布」を作り上げ、1583年に尚永王に献上しました。これに感激した尚永王は真栄に親雲上の位を与えたと言われています。

「綾錆布」は別名「太平布」とも呼ばれ、宮古上布の始まりとされています。

綾錆布と宮古上布



■綾錆布(太平布)とは

苧麻の糸を青く染めた、細い経縞の織物だったと言われている。

■上布とは

苧麻を原料にした上質な糸で平織りにした織物。非常に薄くて軽く、夏の最高級呉服生地として扱われる。越後上布、能登上布、近江上布、宮古上布、八重山上布などがある。

■重要無形文化財「宮古上布」の工芸技術指定の要件

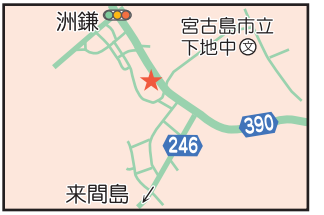
- 全て苧麻を手で績んだ糸を使用
- 絣模様をつける場合は伝統的な手ゆい又は手くくりによること
- 純正の植物染料で糸を染める
- 手で織る
- 仕上げ加工の場合は木槌で手打ちし、天然材料の糊を使用する

絣模様：織る前にあらかじめ文様にしたがって染め分けた糸を使って織ってできた柄
資料提供：宮古上布保持団体

市指定史跡　1980(昭和55)年1月10日指定

松村家の井戸の縁石

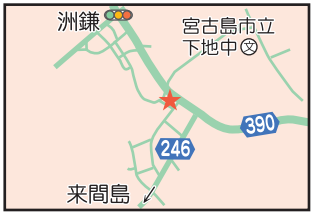
洲鎌集落の松村家は、下地の主長・川満大殿の子孫です。この宅地内の井戸には推定約400年前のものと考えられる、直径120cm、高さ65cm、内幅90cmの丸型のくり抜き縁石があります。このような縁石は、松村家と盛島家にありますが、盛島家はひとまわり小さい縁石が残されています。川満大殿が1498年にベウツ掘割工事、1506年に池田矼を造り上げていることから、同年代に宮古島に石工が数多くいたであろうこと推測できます。しかし、この井戸が川満大殿の手でつくられたのか、２代目の手によるものかを知る記録は、松村家には残っていません。



川満大殿の古墓

洲鎌集落の東方にある巨石を積み上げたミャーカは、川満大殿とその妻が葬られています。1500～1550年頃に築造されたといわれています。

川満大殿は1458(天順２)年生まれと推定され、平民として田舎に生まれながら一躍下地の主長に任ぜられるという、かつて例のない出世をしています。1498(弘治11)年に、仲宗根豊見親の命を受け、ベウツ川掘割工事によって嘉手苅南部の用水を整備してマラリアの病原を断ち、広大な農耕地を拓きました。1506(正徳元)年には、泥が深くて歩きにくい与那覇湾に面した加那浜に一大土木工事を起こして石道を造り、庶民の苦難を除きました。また、若くして非業の死を遂げた義人、川満村の真種子若按司を庇護して慈悲人情の手本となり、八重山のオヤケ赤蜂征伐や、与那国島の鬼虎との戦いに従軍して戦功をあげるなど、まさに「智仁勇」を兼ね備えた人物でした。

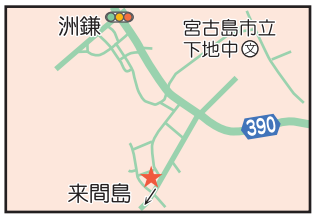


ツヌジ御嶽

ツヌジ御嶽は大世の主をまつる赤崎御嶽の遥拝所(遠く離れた所から神仏などを拝む場所)で、毎年旧暦６、８、10月の甲午の日に例祭が行われ、11月には御願が行われます。

昔、赤崎御嶽の例祭日に出かけた途中で大雨にあい、大岩の陰で雨宿りをして晴れるのを待つも、なかなかやまず、仕方なくその大岩に供え物をし、行けない事情を報告して帰路についたことがあったそうです。それ以来、雨宿りした岩を赤崎御嶽のご神体として拝むようになったといわれています。

今では、赤崎御嶽にお参りするのは司や神女たちで、一般の人々はツヌジ御嶽から遥拝するようになっています。

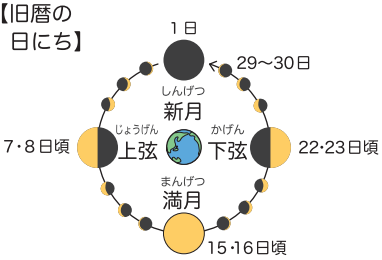


旧暦と干支

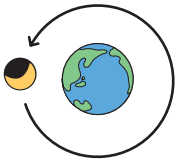
旧暦とは

月の満ち欠けと太陽の運行をもとに作られた「太陰太陽暦」のこと。日本では、1872(明治5)年まで「天保暦」が使われていました。昔からの風習や、行事の多くはこの旧暦に従って行われています。

【旧暦の日にち】

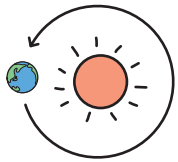


太陰暦



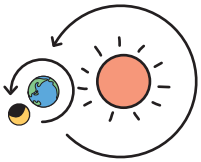
地球の周りを、月が1周する動きをもとに作られた暦。季節と無関係。潮の満ち引きや動植物の変化が分かる。1年は12ヶ月で、小月(29日)と大月(30日)がある。

太陽暦



太陽の周りを地球が1周する動きをもとに作られた暦。現在、世界中で使われているグレゴリオ暦(新暦)のこと。季節と日にちが合っている。

太陰太陽暦



月の満ち欠けを中心に太陽の動きを取り入れた暦。
うるう月の入る、1年が13ヶ月の年もある。

干支とは

「十干」と「十二支」を組み合わせ、60を周期とした数詞で、暦や時間、方位などに用いられます。

1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	10.	11.	12.
甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸	甲	乙
子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥

13.	14.	15.	…		…	58.	59.	60.
丙	丁	戊	…	順に十干と十二支を組み合わせていく→	…	辛	壬	癸
子	丑	寅				酉	戌	亥

60の組み合わせが終わったらまた始めにもどる

それぞれの干支には、「子」は子孫繁栄・財、「午」は豊作・健康といった意味がある。

例：2013年4月28日の場合、

年の干支：2013年は癸巳、

次の癸巳の年は60年後の2073年

月の干支：4月は丁巳、以下5月戊午、6月己未

日の干支：28日は甲子、以下、29日乙丑、30日丙寅

【十二支】

「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」の12種類で年や月、方角、時間を表す。

【十干】

等級区別に使われる「甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸」の10区分を、五行や陰陽の考え方と組み合わせたもの。

五行：自然や世界は木・火・土・金・水の5つの元素からなるという考え方。陰陽：陰と陽の対立する2つの気があり、全ての変化はこのふたつの気で起こるとする考え方。日本では陽を兄、陰を弟とする。

ミャーツ墓

この墓は、16世紀前半、当時下地の主長を務めていた川満大殿の命を受け、与那覇湾に面する加那浜に石道を造り上げ、見事大任を果たした石工一族、浜氏の墓です。この一族系列である上地家の一部では、名前に「濵」の一字を付けていたといわれています。ミャーツ墓は、琉球石灰岩などの巨石を積み上げて造られています。宮古特有の巨石墓で、四方を囲った上に大きな一枚岩を乗せており、このような形態の墓を「ミャーカ墓」といいます。

スムリャーミャーカ

集落から約800ｍ南方にあるスムリャー(長間家)一族のミャーカ(巨石墓)で、古くは来間大殿ミャーカ、近代ではグンソーミャーカとも呼ばれ、大正時代まで使用されていたと伝えられています。東西９ｍ、南北およそ6.5ｍの長方形で、高さは2.5ｍあり、上部は3.5ｍ×３ｍの板状の石で覆われています。墓の内部からは14～15世紀頃の青磁片なども見つかっており、ミャーカの特徴をよく表しています。

ヤーマス御願

ヤーマス御願は毎年９月頃の甲午の日に行われ、来間島全島民が参加する大行事です。

１日目は、スムリャー、ウプヤー、ヤーマスヤーの三家で行われます。三家の血族を、スムリャーぶなか、ウプヤーぶなか、ヤーマスヤーぶなかといいます。朝早くからブナハ(線香)と洗米を持ちそれぞれのぶなかに行きます。このときこの１年間で子どもが生まれた家からは酒１升とご馳走(マスモリ)を、その年に21歳になった若者がいる家からは酒１升が寄せられます(マスピャー)。それに並行して神司たちが早朝から島の３か所の御嶽で御願をし、その後、人々にお神酒を１杯ずつ振る舞います。こうして１日中、それぞれのぶなかで過ごします。

２日目も朝からぶなかに集まり、歌を歌ってお神酒をいただきます。午後は行列をなしてぶなかから踊り出て、中御嶽の広場で島民一同で酒宴を催し楽しみます。日暮れにはそれぞれのぶなかへ引き揚げ、最後の酒宴を催し、２日間の祭りの幕を閉じます。

来間の島建て

「下地町の民話」上地正吉さんのお話より

昔、川満の喜佐真按司に美しい娘がおりました。ある朝、太陽の強い光が当たると娘のお腹が大きくなり、３年と13日目に３つの卵を産み落とし、３日後に大きな男の子が３人産まれました。喜びもつかの間、長男は１日に米を７升、次男は５升、三男は３升も食べたので、世話をしきれないと思った母は、子のいない与那覇勢頭豊見親に差し出しました。ところが勢頭豊見親もとても育てられず、「来間島に行ってはどうか」と３人を島へ行かせました。

３人が島に渡ると、島には90歳のおばあさんがたった１人で住んでいました。なぜ誰もいないのか尋ねると、海から恐ろしい赤牛が来て皆をさらってしまったと言うのです。そこで三兄弟が海に様子を見に行くと、赤牛が恐ろしい勢いで襲いかかって来ました。弟ふたりは敵わず、長男が角を掴まえて地面に叩きつけ、「降参なら許す」と片角を引き抜いて逃がしました。

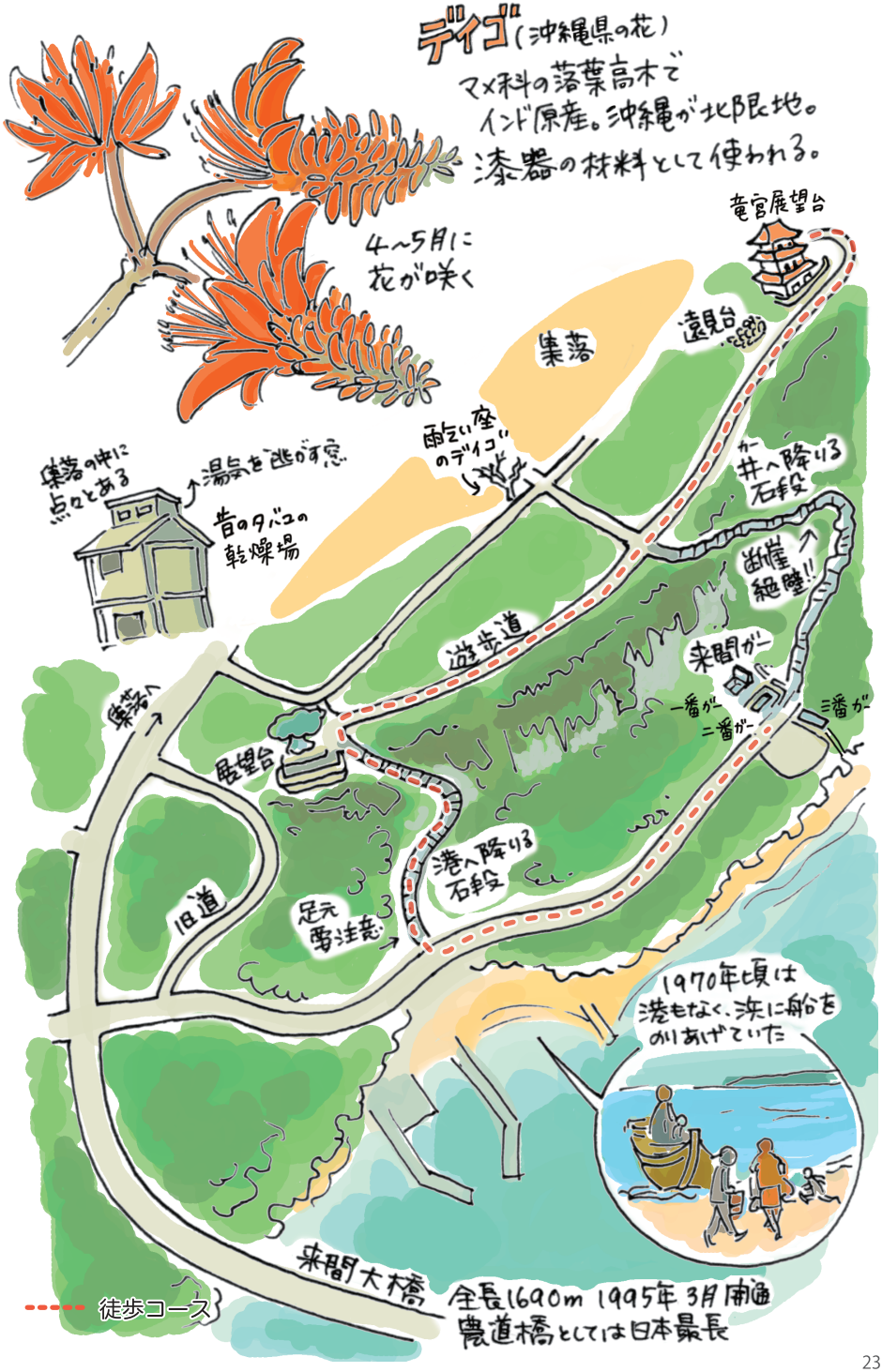
翌朝、潮がすっかり引いた海で牛を捜し歩いていると、海の底にきれいな女の人がいる！と三男が言いますが、兄たちには見えません。三男が潜ってみると、不思議なことに海底は陸になっていました。三男が見た女は「赤牛に捕まってここで門番をしている」言うので、兄たちを呼び寄せ、女に案内されて立派な家に入りました。すると、顔が血だらけの赤牛が這い出て来たので、なぜ人間をさらったのかと聞くと、「300年前の来間島は『千人原』といって下地島に新しい村を作るほど栄えていたのに、豊年祭をやめてしまった。だから怒ってここに連れてきたのだ」と言うのです。実は、赤牛は来間の豊年の神様だったのでした。

「必ず豊年祭をするから、皆を返して欲しい」と頼むと、「もう誰も動けない。この娘だけ返そう」と返してくれました。その娘はおばあさんの子で、喜んだおばあさんは長男の嫁にしました。そして、２人の間に産まれた子どもが次男と三男の嫁になりました。それからは神様と約束した通り、三家で豊年祭を立派に行うようになり、こうして来間島は元通り栄えるようになりました。

市指定天然記念物（植物）　1980(昭和55)年1月10日指定

雨乞座のデイゴ

　このデイゴの木は元来間小中学校東側の雨乞座にあり、神木とされています。毎年９月頃の甲午の日に行われるヤーマス御願のとき、この神木の下で踊りが奉納されます。このデイゴは、スムリャー、ウプヤー、ヤーマスヤーの３兄弟が１本ずつ植えたと伝えられていますが、うち１本は何者かによって切り倒され、もう１本は2019年の台風で倒れてしまい、現在は１本のみが残っています。


デイゴ（沖縄県の花）
マメ科の落葉高木で
インド原産。沖縄が北限地。
漆器の材料として使われる。
4～5月に
花が咲く
竜宮展望台
遠見台
集落
集落の中に
点々とある
湯気を逃がす窓
昔のタバコの
乾燥場
酔っぱらい座
のデイゴ
井へ降りる
石段
断崖
絶壁!!
遊歩道
来間ガー
一番ガー
二番ガー
三番ガー
集落へ
展望台
港へ降りる
石段
旧道
足元
要注意
1970年頃は
港もなく、浜に船を
のりあげていた
来間大橋
全長1690m 1995年3月開通
農道橋としては日本最長
徒歩コース

先島諸島火番盛「来間遠見」

来間遠見は、沖縄県の２市２町１村の、19か所に点在する遠見番所群のひとつです。琉球石灰岩を３ｍほど積み上げ、方位を示す石も備えられています。第二次世界大戦で日本陸軍によってさらに補強され、今の形になりました。

昔は対岸の与那覇前浜に役人の姿を確認すると、すぐに村番所に伝え、はや舟を出して迎えることになっていました。

火番盛は1644（正保１）年、江戸幕府の鎖国体制下で琉球王府によって設置されました。主に異国船の到来を監視し、のろしを上げて各地の火番盛を伝い、琉球王府へ知らせる機能を担っていました。

市指定史跡　1976(昭和51)年11月1日指定

来間川（泉）

来間集落北側の断崖絶壁に約130段の石段があり、その階下にこんこんと湧き出る島唯一の泉は、長年にわたり来間島住民の暮らしと命をつなぐ源でした。いつの頃からか、泉の中に樫の木が生え、それを取り除いたら水が出なくなって大騒ぎになりました。ユタに頼んで神にお伺いを立てたところ、神木の樫の木を取り除いたからだという神のお告げがあり、樫の木を元に戻すと再び水がこんこんと湧き出し、今日にいたっていると伝えられています。

1975(昭和50)年に宮古島本島から海底送水が行われるようになると、この泉は使用されなくなりました。

市指定天然記念物(保護区)　1981(昭和56)年２月17日指定

来間島断崖の植生

　来間島の北海岸には、断層がずれてできた断層崖が広がっています。この断層崖は宮古群島を特徴づけるいくつかの断層稜線のひとつであり、第四紀更新世(約258万8000年前～約１万1700年前)の頃に形成されています。

　地質は琉球石灰岩でできており、島の半分を断層崖と波によって浸食された海食崖が取り囲み、高い所では海抜約45mあります。変化に富み、環境別に様々な植生が見られ、多くの貴重な草木があります。

来間島の植生

幅 約100m
長さ約3.2km
断層崖 約2.4km
海食崖 約850m
連続して伸びる
島の半分が崖
起伏に富んでいる
海抜45m
切り立った崖の75%はガジュマル
ガジュマル
方言:ガザマギー
その次に
・ソテツ
・ゴウシュウタニワタリ
・アマミヒトツバハギ
などが見られる
斜面地になると
・インドシャリンバイ
・ガジュマル
・ツゲモドキ
・アカテツ
・トベラ
・リュウキュウガキ
・アダン
崖下は転がり落ちた岩の目立つ肥沃な土地
・クロヨナの群落
ソテツ
浜
・ツキイゲ
クロヨナ(マメ科)
平べったい種
リュウキュウガキ
柿そっくりのリュウキュウガキ。でも有毒注意
インドシャリンバイ
方言:ヒカツギー
染料植物
ゴウシュウタニワタリ
(オオタニワタリ)
方言:パーントゥギー
ツキイゲ
雌雄花は熟すと浜をコロコロ転がる
パイナップルみたいなアダン
ツゲモドキ
木肌がおもしろい

文化財の体系図

文化財の種類

特に価値の高いもの

特に重要なもの

重要なもの

特に必要のあるもの

保存と活用が特に必要なもの

保存できるよう考える必要のあるもの

文化財

有形文化財

建造物
美術工芸品　工芸品、絵画、彫刻、書跡、典籍、古文書、考古資料、歴史資料など、形のあるもの

- 指定 → 重要文化財 → 指定 → 国宝
  - 国宝：世界から見ても価値が高い、国の宝
- 登録 → 登録有形文化財

無形文化財

演劇、音楽、工芸技術などの、形のない、人間の「わざ」そのもの

- 指定 → 重要無形文化財
- 選択 → 記録や作成などを考える必要のある無形文化財

民俗文化財

有形民俗文化財　無形民俗文化財に使われる衣装、器具、家屋など
無形民俗文化財　衣食住、生業、信仰、年中行事などに関する風俗習慣、民俗芸能、民俗技術

- 指定
  - 重要有形民俗文化財
  - 重要無形民俗文化財
- 登録 → 登録有形民俗文化財
- 選択 → 記録や作成などを考える必要のある無形民俗文化財

記念物

遺跡　貝塚、古墳、都城跡、城跡、旧宅など
名勝地　庭園、橋梁、渓谷、海浜、山岳など
動物
植物
地質鉱物

- 指定
  - 史跡 → 指定 → 特別史跡
  - 名勝 → 指定 → 特別名勝
  - 天然記念物 → 指定 → 特別天然記念物
- 登録 → 登録記念物

文化的景観

地域の人々の生活または生業及び地域の風土によって形成された景観地　棚田、里山、用水路など

- 都道府県または市町村の申し出に基づいて選定 → 重要文化的景観

伝統的建造物群

宿場町、城下町、農漁村など

- 市町村が決定 → 伝統的建造物群保存地区
- 選定 → 重要伝統的建造物群保存地区

文化財の保存技術

文化財ではないが、保護の対象となっているもの。文化財の保存に必要な材料や用具の生産制作、修理・修復の技術など

- 選定 → 選定保存技術

埋蔵文化財

土地に埋まっている文化財

それぞれの文化財の一例

※宮古島市や、沖縄県、九州にある文化財の一例

文化財

有形文化財
形のあるもの

- 指定 → 重要文化財
  - 豊見親墓3基（とうゆみやばかさき）
- 指定 → 国宝
  - 治金丸 / 沖縄県（じがねまる / おきなわけん）
- 登録 → 登録有形文化財
  - 旧西中共同製糖場煙突（きゅうにしなかきょうどうせいとうじょうえんとつ）

無形文化財
形のないもの

- 指定 → 重要無形文化財
  - 宮古上布（みやこじょうふ）

民俗文化財
生活に関係したもの（かんけい）

- 指定 → 重要有形民俗文化財
  - ウイピャームトゥの祭場（さいじょう）
- 指定 → 重要無形民俗文化財
  - 宮古島のパーントゥ
- 登録 → 登録有形民俗文化財
  - 竹富島の生活用具 842 点 / 沖縄県竹富島（たけとみじまのせいかつようぐ / たけとみじま）

記念物
- 指定
  - 史跡（歴史上の名所（れきしじょうめいしょ））
    - 遠見番所（とおみばんじょ）
  - 特別史跡
    - 吉野ケ里遺跡 / 佐賀県（よしのがりいせき / さがけん）
- 登録 → 登録記念物
  - 旧仲宗根氏庭園（きゅうなかそねしていえん）
- 名勝
  - 東平安名崎（ひがしへんなざき）
- 特別名勝（景色のよいところ）
  - 識名園 / 沖縄県（しきなえん）
- 天然記念物
  - オカヤドカリ
- 特別天然記念物（貴重な自然を記念するもの）
  - イリオモテヤマネコ

文化的景観
人間と自然が作ってきた景色（にんげん）

- 指定
  - 重要文化的景観
    - 別府の湯けむり・温泉地 / 大分県（べっぷのゆけむりおんせんち / おおいたけん）

伝統的建造物群
歴史的なまちなみや景色（れきしてき）

- 伝統的建造物群保存地区
- 指定
  - 重要伝統的建造物群保存地区
    - 竹富島の農村集落 / 沖縄県 竹富島（たけとみじまのうそんしゅうらく）

選定保存技術
文化財の保存に大事な技術

- 苧麻糸手績み（ちょまいとてうみ）

埋蔵文化財
埋まっているもの（う）

- 住屋遺跡（すみやいせき）

私たちの文化財です
大切にしましょう

文化財を許可なく無断で現状変更することは法律で禁止されています。

昔のことや、自然のこと、いろんな人の考えなど、たくさんのことを教えてくれる大切なものです。

宮古島アプリ綾道
教育委員会
公認アプリ

このアプリケーションは、GPS機能を利用したコース案内が可能なほか、現地で文化財の説明などを閲覧することができます(ダウンロードをしておけば、ネット環境が不十分な場所でも文化財の閲覧が可能です)。

ポータルサイト

宮古島市neo歴史文化ロード　**綾道(下地・来間コース)**

発行　初版 平成31年３月　改版 令和３年３月
編集・発行　宮古島市教育委員会
〒906-8501沖縄県宮古島市平良字西里1140番地
TEL 0980-72-3764　FAX 0980-73-1976
イラスト・デザイン　山田　光
平成25年度宮古島市neo歴史文化ロード整備事業